

企画展「いっぺこっぺ湿地」 ～ 生物多様性の観点から注目される湿地～

県立博物館

企画展について

博物館本館1階の企画展示室において企画展「いっぺこっぺ湿地」を開催しています（令和7年2月23日まで）。

タイトルにある“いっぺこっぺ”とは、鹿児島県の方言で“あちらこちら”という意味です。この企画展では、鹿児島県内の“あちらこちら”にある湿地（干潟、マングローブ湿地、湿原、水田など）とそこにすむ多様な生きものをパネルと標本を用いて紹介しています。



【展示会場の様子】

展示の見どころ

日本最大のシジミ



【ヤエヤマヒルギシジミ（標本）】

ヤエヤマヒルギシジミは、奄美大島以南の南西諸島に分布する日本最大のシジミです。マングローブを代表する生きものの一つで、マングローブ植物が

群生する泥地に生息します。企画展では、県内最大のマングローブである奄美市住用マングローブの泥地から採集した体長13cmを超える標本を展示中です。

泥炭



【泥炭の実物（北海道石狩産）】

泥炭は、植物が完全に分解されずに堆積した泥状の物質で、石炭の一種です。湿地の一つである「湿原」は、この泥炭の上に植物が生育してできた草原であり、泥炭が天然のスポンジとして機能することで、湿原の水分が一定に保たれます。

泥炭のほとんどは、保護地にあるため現地に赴かないと実物を見ることはできません。しかしながら、今回は企画展用に、産業利用されている泥炭（北海道石狩産）を入手し、湿原にあるものと近い形で展示しています。

ツルの剥製



【ツルの剥製】

2021年に県内で3番目にラムサール条約登録湿地となった「出水のツル越冬地」を紹介しています。この湿地の生きものとして、ナベヅル、マナヅル、数年に1回しか渡来しないソデグロヅルの剥製を展示しています。